

Freedom



高校生の人権広報誌

“Freedom” 第15号

2014年 3月31日発行

編集 “Freedom” (フリーダム) 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめあう日」

東日本大震災、原発事故、豪雨等により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原発事故から3年あまりがたちました。これまでの活動を通じて学んだこと、気づいたことから、継続的な支援・今できる支援について、また環境問題について、これからも考えていきましょう!! 編集スタッフも募集中です。



全国生徒会サミットに参加して

高等養護学校 生徒会

全国生徒会サミットアピール文

「2050年に向けて、 今、自分にできることは何か」

奈良県立高等養護学校 竹田 真子

今、自分にできることは、「学校の勉強をガンバルこと」「家でお手伝いをする事」です。

私は、特別支援学校に通っています。皆さんは、特別支援学校を知っていますか。特別支援学校には、知的障害・肢体不自由・盲(も)・聾(ぶ)・病虚弱の5つの種別があります。私が通っているのは、「奈良県立高等養護学校」という知的障害を持つ生徒たちの学校です。

私は中学2年生の時、脳の発達が遅れていることが分かりました。九九は七の段から言えません。割り算はほとんどできません。漢字も簡単な字は読めますが、書くのは苦手です。でも得意なこともあります。体育の授業はみんなと一緒に勉強しました。走るのは得意だし、テニスもできます。

将来、私は普通に生活がしたいです。みんなと同じように仕事がしたいです。でも、障害を持っていることへの理解をしてもらえなくて大変なこともあると思います。だから、私は、学校でしっかり勉強して、将来自分が困らないようにするために頑張っています。

学校では、卒業して仕事をするために、就職活動をしています。1~2週間事業所に行き、実際に仕事を体験したりして、自分に合う仕事を探しています。家の手伝いもそうです。いつでも、一人暮らしができるように今から準備しています。

障害を持つ人でも健常な人でも、同じ人間です。そのことは、忘れないでください。そこで、お願いがあります。2050年にはみんな50代になっています。その時に、生徒会サミットで私が言ったことを思い出してください。「障害者も同じ人間です。」みんなで力を合わせて、よりよい社会にいきましょう。

みんなで カいっぱい がんばろう!

私は八月八日から十日まで福島県で開催された全国生徒会サミットに参加しました。生徒会サミットとは東北地方の福島県・宮城県・岩手県を除く全国の高校生の中から十名しか選ばれない貴重なサミットです。私はその十名の中の一人に選ばれました。サミットの主なテーマは、「二〇五〇年に向けて、今できること」です。みんなで高校生プロジェクトを立ち上げ、アクションプランを考える会議がありました。生徒たちが「二〇五〇年に向けて、…」のテーマなどを発表していきました。

自分の興味のあるテーマを決めて、チーム作りをしました。私は高等養護学校の代表なので、養護に障害について発表しました。今回のサミットの参加者の中で特別支援学校の生徒は私だけでした。サミットに参加した人はみんな真剣に私の話を聞いてくれました。他にもたくさんさんのテーマがありました。もちろん、自分は障害に関するプロジェクトチームにしました。私ははつきり言って、誰も来ないと思っていたら、八人くらい来てくれました。約一〇〇人の参加者の中で八人も障害のことに興味をもってくれて、一緒に勉強でき

ました。その時の私の気持ちは、とても嬉しすぎて声が出なかつたです。大阪の女の子がリーダーになって、チームをまとめてくれました。みんなでいろんな意見を出して、考えていきました。ふせん紙に二十枚くらいありました。一番多かった意見は、「他校や地域との交流会を実施する…」でした。私たちの高等養護学校では奈良県立高田高校とお互いの文化祭や部活動の合同練習会などで交流しています。生徒会が中心になって準備したり、部活ごとに工夫したりしています。けれど、サミットの八人のメンバ



「はそんなことが分からないのに考えてくれてよかったです。」
(高等養護学校 竹田 真子)

※高等養護学校の先生より

竹田さんが全国生徒会サミットに参加して、多くの仲間達と活動したことは貴重な財産になりました。合わせて、これからの日本が世界の中でどうあるべきかという課題も持ち帰り、さっそく二学期の集会で発表してくれました。本部役員が集まって、話し合うこともしています。課題が大きすぎて悩んでしましますが、今、自分が出来ることを積み重ね、少しずつ自信をつけてくれると思います。それが一人一人の、そして、学校全体の誇りとなるのだと思います。

※「全国生徒会サミット」は「二〇五〇年に日本のリーダーになる人材を」をコンセプトに、公益財団法人 夢現エデュテイメントが文部科学省の復興教育支援事業の委託を受けて開催しているものです。従来の中学校生徒会サミットに加え、二〇一三年度より高校生部門がはじまりました。

※本誌記事中の年月日の表記および生徒の学年は、すべて執筆された当時のものです。



皆さんお久しぶりです、突如彗星のように現れ流れ星のように蒸発した私です。前回の内容を覚えている、というよりこの記事の存在を記憶の片隅にでも置いている方は天文学的少数だと思うので前回のあらすじを説明させてもらいますと『シンポジウムに行った』以上です。私の編集技術の低さがこうしたものではありません。ページ制限が諸悪の根源です。ですが今回は話が早く進みます。何故かって？ 3分の1は寝てたからです。この一言から察せられるように、私にとってこのシンポジウムは至極つまらないものとなりました。何故そう思ったのか？ 内容と同時に説明しようと思います。

まず、私のこのシンポジウムに対する期待やワクワク感が高過ぎたのがガッカリの大部分を占めています。前回でも言った通り、「これでいいのか」という挑戦的な台詞に惹かれ、もとい釣られて参加しました。しかしフタを開けてみれば、学生がネットでどのようにイジメと関わっているかや、「最近LINEというスマートフォンのアプリが——」、「こうすることで巻き込まれずに——」「親の皆さんはこうしたほうが——」等、基本的なことばかり話すのです。私からしてみれば『そんなことは知ってた！ もっと深いところに突っ込んでくれよ！』という願望でいっぱいでした。私自身その《深いところ》がどのような物か把握出来ていません。そんな人間が文句を言うのは凶々しいということをちゃんと分かっております。しかし、『これじゃまるでただの勉強会じゃないか』というのが私の、今回参加したシンポジウムの感想です。

しかし、ガッカリと同時に素晴らしいことだ、と思ったこともあります。会場にいた子連れママさんの存在です。シンポジウムの中でも散々言っていました、「ネットは便利だが危険」。そんなことはこの世のあらゆる道具に言えることです。【包丁は簡単に食材を切れるが人に向ければ危ない。車は遠くまで楽に行けるが事故の危険がある。半田ごては手軽に回路を作れるが火傷やそれですまないこともある。】どれも一緒です。そして、今迄の【便利だが危険】に共通点の一つ付け足すとすれば、いずれの道具も、便利さ・使い方、そして危険性について教えられてます。ネットにもそれが言えるのです。では何故学生が犯罪に巻き込まれたり、それに手を染めてしまったりするのか？ 今の高校生諸君は小学校や中学校でネットという道具について教えられたことがあると思います。しかし、学校の先生より結句親が教えるのが一番なのです。ですが、ここでの大きな問題は、先生と違い親はその手の会社に勤めていたりしない限りネットに詳しくないということです。しかも、家事にせよ会社にせよ働いている親は勉強する時間が無いのです。このようなことを考えていた私はあの子連れママさんを見たとき感心しました。

政治、文化、ネット社会、これらについて語っていったとき最後は教育問題に収束している気がします。言ってしまうと、大人が集まって話すだけでなく、子供にその話し合っただけの答えを教えることこそが大切だと思われま

次号 (最終回) に続く

「水平社博物館」に行きました

今年の七月九日、私たち香芝高校解放研は、人権についてより詳しく学びたいと思い、御所市柏原にある水平社博物館に行ってきました。館内は二階建てで、一階に受付があり、「人権ふるさとマップ」では、地図や映像で、博物館の周辺の位置関係や水平社創立までの経過が紹介されています。二階には、ビデオコーナーや水平社創立前や創立後のことを理解できる豊富な資料があります。また、「フアンタビューシアター」では、全国水平社創立大会の様子が上映されています。その映画を見ながら、自分も創立大会に参加している気分が味わえ、ともに感動できます。それらのことを見て体験して、私たちが暮らしている毎日、先人たちのおかげであると思いがあつたというところが分かりました。全国水平社は、一九二二年三月三日に創立されました。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と高らかに人間の尊厳と平等をうたいあげて結成されたこの組織の中心となったのは、御所市柏原の青年たちでした。柏原の三青年と呼ばれる阪本清一郎、西光万吉、駒井喜作は、部落差別撤廃の実現のために、西光寺門前の駒井喜作宅玄關脇に「水平社創立事務所」の看板を掲げました。彼らはその後、数々の同志と出会い、全国水平社創立に向けて、準備をしていきました。そして、三月三日



の全国水平社創立大会を通して、全国水平社という組織は動き出しました。このときに出された「水平社宣言」は、日本で初めての人権宣言であると言われています。私たちは資料を見て、この三青年の努力と苦勞を感じました。最初は小さな活動だったかもしれませんが、最後はとても大きなものになったということは、私たちに力を与えてくれ、また、先人たちに對する感謝の気持ちも生まれました。こういう方々を見習い、そして守ってくれた人権というものを大切にすべきだと思います。(香芝高校 飛多 亮佑)



高解研 研修・交流会 参加体験記

二月二日(日)、私は、桜井市中央公民館で開催された高解研の研修・交流会に初めて参加しました。前半の研修会では、「東日本大震災と福島訪問」について研修を受けました。地震や原発のせいで、人々や自然に色々な影響を与えているのだと思いました。そのときのことを想像でき

「水平社博物館」について 水平社発祥の地である御所市柏原にあります。(開館時間) 午前十時～午後五時 (休館日) 月曜日(要確認) (アクセス) JR掖上駅から 一・二km

るような内容でした。後半の研修会では、調理実習で東北の郷土料理「まめぶ汁」を各学校の生徒たちや先生方と一緒に作りました。違う学校の人たちと同じグループになったので、始めは緊張しましたが、料理が進んでいくにつれ、会話もできるようになって楽しめたので、とてもいい経験になりました。



交流会では、それぞれの学校の活動報告があり、各校の行っていることが分かって、色々参考になりました。今回の研修・交流会に参加して、たくさんの人と交流・協力して、皆さんと仲良くなるのができて良かったです。また、参加できたらいと思えます。(香芝高校 中村 美貴) ※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。

高校生の人権広報誌 “Freedom” 第15号 (2014年3月31日発行) 発行 奈良県高等学校人権教育研究会 〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県人権センター内 TEL 0742 (62) 5555 FAX 0742 (62) 5568 E-mail kodokyo@kcn.ne.jp HP http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/ ※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。 ※本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください) ※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。